

(様式第1号)

研究No. (記載不要)	19 - 文学 - 5
-----------------	-------------

平成19年度配分 研究成果の概要

研究者氏名 (代表者)	学 部 名 (研究科名)	学 科 名	職	氏 名	共同研究の 場合の分担
	文化政策	国際文化学科	准教授	林 在 圭	研究統括・沿岸漁 村生活構造調査
共同 研究 者	文化政策	国際文化学科	准教授	永井 敦子	伝統的民俗祭礼
	文化政策	国際文化学科	教授	須田 悦生	伝統的民俗芸能
発表の方法 (予定で可)	1 紀 要		号 数	第 号 (年 月発行)	
	2 学会等での発表 学会等名:「韓国の祖先祭祀における食文化と信仰的シンクレティズム」(日本生活学会)		発表日 (発表 予定日)	平成19年10月1日	
	3 その他 発表の方法:「桃李里の村落概況」および「チプ・家族・家口の様態」『東アジア村落の基礎構造』御茶の水書房		発表日 (発表 予定日)	平成20年1月15日	

注:配分を受けた翌年度の6月末までに提出

(研究の目的等)

近年、急速に変動しつつある韓国の地方地域社会(これまで開発が後発であった「忠清南道唐津郡」)を対象として、韓国社会の現代的変貌における土着文化と儒教文化とがいかに変容し、いかなる適応をとっているかについて明らかにする。そのために、忠清南道唐津郡の両班村落(農村)と非両班村落(沿岸漁村)とを対象村落として選定し、村落レベルにおける儒教的大伝統の受容の差異がいかなる異同を生じているかを実証的に検証する。

(研究の実施方法等)

両班村落(桃李里)の崇慕祭(儒教的な祖先祭祀の拡張化として)・機池市の大綱引き(伝統的な民俗芸能として)・非両班マウル内島の豊漁祭等の伝統的民俗祭礼を事例にして、巫俗的な土着文化と儒教文化の二重構造の様相および行政レベルの参与や国家の伝統文化復興政策の活性化のなかで当該地域社会の伝統的な民俗祭礼にみられる特徴と現代的な変化を検証する。

(得られた成果等)

西洋に片寄りがちである異文化認識に対してややもすれば距離的近接性の故に日本人の誤解を内包している韓国文化の理解の現状を鑑み、①韓国の基層文化の特徴と変容プロセスを継時的に把握する。②韓国における適応過程および変動の一因を究明することができた。③急激な社会変化にともなって生じた諸問題(たとえば、地方地域社会の過疎・高齢化や開発・環境問題など)を析出しこれを東アジア諸国の場合と比較しつつ、その解決策についても検討する。④なによりも日本(琉球を含む)および中国や西欧などと韓国の地域社会の比較を通して東アジア文化圏における文化の共通性と差異の明確な認識と、そのことを通じて国家レベルとしてよりも「民」のレベルにおける隣国韓国社会・文化の理解を深めることができる。